様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月 １２ 日現在

機関番号：１５４０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｋ０２８５５

研究課題名（和文）解釈学的ライフストーリーを用いた留学生にとっての日本語学習の意義の研究

研究課題名（英文）The meaning of studying Japanese for international students in Japan

研究代表者
中山　亜紀子（Nakayama, Akiko）

広島大学・教育学研究科・准教授

研究者番号：２０５４９１４１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,400,000円

研究成果の概要（和文）：本科研事業を通じて、世界を席巻している英語＝国際語という言語イデオロギーが、日本における留学生の日本語学習の意義に、非常に大きくかかわっていることが明らかになった。具体的には、韓国における日本語学習者は、日本語を選択する際、就職などの「言語道具主義」的な観点から日本語を戦略的に選択していた。また、日本留学中には、日本語能力によって周縁化される経験をしていた。一方で、リンガ・フランカとして英語を話す外国人との交流のでは、対等な関係で自由に話せると感じていた。解釈学的ライフストーリーは、従来、個人的な世界を見ることを得意としてきたが、個人に関わる大きな世界の事象も扱えることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の成果によって、日本語教育を世界的な潮流の中で見る必要性が明らかになり、将来の日本語教育のあり方を考える新たな方向性を示せたのではないか。また、本研究では、日本で比較的受け入れられている解釈学的ライフストーリーを使った手法が、海外では少数派であり、その意義を積極的に発信していく必要性を感じた。

研究成果の概要（英文）：The following three points were focused on this project. 1) The language ideology of English as an international language taking over the world is involved in the significance of Japanese language learning for international students in Japan. 2) In cases of Japanese learners in South Korea, the reason they chose Japanese was that Japanese is relatively useful for their future job hunting, even not as much as English. This very strategical choice of Japanese ties with "linguistic instrumentalism" and competitive situation for getting a job in South Korea. 3) While studying in Japan as international students, they often felt marginalization in the interaction with Japanese native speakers due to the lack of Japanese language fluency and socio-cultural knowledge. On the other hand, they felt that they could speak freely in an equal relationship when they were interacting with English-speaking international students group using English as a lingua franca.

研究分野：日本語教育

キーワード：ライフストーリー　留学生　リンガフランカとしての英語　解釈学的方法

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

近年、人の移動の増加と情報技術の発達に伴い、言語学習環境は大きく変化している（青木2016）。英語のリンガフランカ化は一層加速化し、多くの海外の大学教育において日本語学習の意義は、転換期を迎えている（加藤、中山、倉地2016）。日本の大学においてもその影響は免れず（倉地、中山、加藤2015）、留学生にとっての日本語学習の意義は大きく変化している。理科系大学院生にとっては、日本語はもはや研究遂行上必要な言葉ではない。大学入学以前に日本語以外の言語を習得している場合も多く、母国を含めた世界、日本の就職市場に出ていく学部留学生／短期留学生にとっても、英語学習の必要性が日本語学習を上回っていることもある。キャンパスの多言語化も進んでいる。

このような転換期を迎え、日本語学習／使用は留学生にとって、どのような意義があるのか、彼らの視点から明らかにする必要がある。ここでいう意義とは、日本語学習選択の理由、日本語使用の場所とその理由、さらにそれらは、留学生の生活の中でどのような意味をもっているのか、英語など他言語ではなく日本語学習／使用で達成されるものは何なのかなど、留学生の人生の中での日本語学習／日本語使用のもつ複合的な意味を指す。

２．研究の目的

留学生の日本語学習／使用の意義を、特に他言語との比較という視点から明らかにすることによって、①一層多言語化し、複雑化している日本の中での、日本語学習／使用の位相を明らかにすることができ、②日本語教師に従来の教育観に変更を迫り、新たな教授内容、教授方法の必要性を提起できると考える。

３．研究の方法

解釈学的ライフストーリーを用いた。解釈学的ライフストーリーとは、研究者自身の姿をストーリーの中に書き込むことで、研究者と研究協力者（以下、協力者）が存在している社会を明らかにすることを目的とする桜井（2002）、三代（2014）の方法とは異なり、研究者が協力者の今までの「来し方」を理解し、それをストーリーとして描くことを特徴としている（中山2016）。ナラティブ・セラピー、解釈学などにその理論的背景をもつこの方法は、研究者自身の協力者への理解を前提としているため、ストーリー作成には、同一の協力者へのインタビューを複数回行うこと、協力者の母国の事情など背景を理解することが必要であり、手間がかかるが、非常に説得力のあるストーリーを描くことができることが長所である。さらに、この方法を用いることによって、研究協力者の「自分らしさ」（Novitz,1989/2001）を解釈することが可能となり、研究協力者の人生の中で、日本語学習がどのような意味を持っているのかを理解することができる。他の言語の学習の意味との比較も容易である。

解釈学的ライフストーリーを含め、質的研究では一般化を目指すものは少なく、協力者にとっての世界の見え方を説明するものである。しかし、その説明が時に、従来の研究の認識論の偏向を明らかにしたり（Norton, 2000）、新しい研究視覚を提供することがある（Pavlenko, 2011）。

４．研究成果

本科研事業の間に、カナダ、中国、韓国など海外での発表、国内で行われた国際学会での発表などを行った。その過程を通じて、日本語教育の中では、比較的受け入れられている解釈学的ライフストーリーを使った手法が、海外では少数派であり、その意義を積極的に発信してい

く必要性を感じた。また、国内でも解釈学的手法を普及するために、さまざまな学会での発表を行った。その中で、解釈学的調査手法が、言語教師の世界を豊かにしてくれることを再発見したことは、大きな収穫であった。

さらに、本研究に関わるインタビューの中で、現在、世界を席巻している英語＝国際語という言語イデオロギーが、日本語学習者がなぜ日本語を選択するのか、非常に大きくかかわっていることが明らかになった。具体的には、韓国における日本語学習者は、日本語を選択する際に、就職などの「言語道具主義」的な観点から日本語を戦略的に選択していた。さらに、日本に留学に来ても、日本における母語話者神話によって、彼らは日本語能力によって相対的に周縁化される経験をしており、結果として、日本の中で英語を話す外国人との交流に投資をするという捻じれた状況が生じていた。解釈学的ライフストーリーは、従来、個人的な世界を見ることを得意としてきたが、個人に関わる大きな世界の事象も扱えることが明らかになった。

今後は、ライフストーリーという研究手法を使いつつ、言語イデオロギーなど言語学習に関わるより大きな世界を描くことにも力をいれていきたい。そのためには、日本語学習者の世界を、学習者が育った世界も含めて描く必要があり、海外の日本語教育関係者と連携を深める必要性があるだろう。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 中山亜紀子	４．巻 22
２．論文標題 韓国人留学生のライフストーリーに見る	５．発行年 2018年
３．雑誌名 リテラシーズ	６．最初と最後の頁 82-88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 中山亜紀子	４．巻 6
２．論文標題 言語教育研究におけるライフストーリー研究覚書	５．発行年 2018年
３．雑誌名 佐賀大学全学教育機構紀要	６．最初と最後の頁 63-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） http://portal.dl.saga-u.ac.jp/handle/123456789/123551	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計6件（うち招待講演　1件／うち国際学会　2件）

１．発表者名 中山亜紀子
２．発表標題 韓国留学生のライフストーリーにみる英語使用体験 英語話者としての自己の構築
３．学会等名 日本言語政策学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 中山亜紀子
２．発表標題 留学を通して新しい自己を作る
３．学会等名 カナダ日本語教育振興会
４．発表年 2017年

１．発表者名 中山亜紀子
２．発表標題 「問い」はどこからやってくるのでしょう―「日常生活」「個人的体験」をヒントとして
３．学会等名 日本語教育学会2019年度九州沖縄支部集会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Akiko NAKAYAMA
２．発表標題 Sense of self in study abroad context: Life stories of Korean male students.
３．学会等名 The 8th National Symposium on Foreign Language Teacher National Symposium Education and Development（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Akiko NAKAYAMA
２．発表標題 Why does she invest in English when she is studying in Japan?: Narrative of a Korean student studying in Japan
３．学会等名 6th International Language Management Symposium（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 中山亜紀子
２．発表標題 韓国人留学生の日本語使用体験と英語使用体験の意味―外国語を話す楽しさと関連して
３．学会等名 韓国日本語教育学会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考